

展示で読み解く三池炭鉱の光と影 —世界遺産「明治日本の産業革命遺産」10周年に負の 記憶をどのように形にするのか?—

「明治日本の産業革命遺産」登録10周年の2025年、各地でシンポジウムや展示が行われました。日本初の産業遺産登録という輝かしい物語が強調される一方で、労働に関する「負の記憶」は影となり、風化が進んでいます。本講座では三池炭鉱を例に、「負の歴史」をどのように展示し、次世代へ繋ぐべきか、そのあり方を共に考えます。

6月19日(金)

15:30~17:00

講師

長谷川 和美

名古屋学院大学外国語学部准教授。

専門は近代日米歴史社会学。人種・ジェンダー等の視点からグローバルな研究を行う。現在は、三池炭鉱におけるローカルな「記憶の政治学」について英語論文を執筆している。

講義の対象

興味のある方ならどなたでも。

定員

20名

受講料

1,000円